

(1) 東側から見た安治川河底隧道工事現場。

安 治 川 河 底 隧 道 工 事

大阪市土木部橋梁課長

堀 威 夫

大阪市の安治川河底隧道は目下着工中で、最近南岸のエレベーター昇降路と之に接続する隧道兩端の一部とを一體とした潜函構築が完了し、北岸に取かゝつた所である。

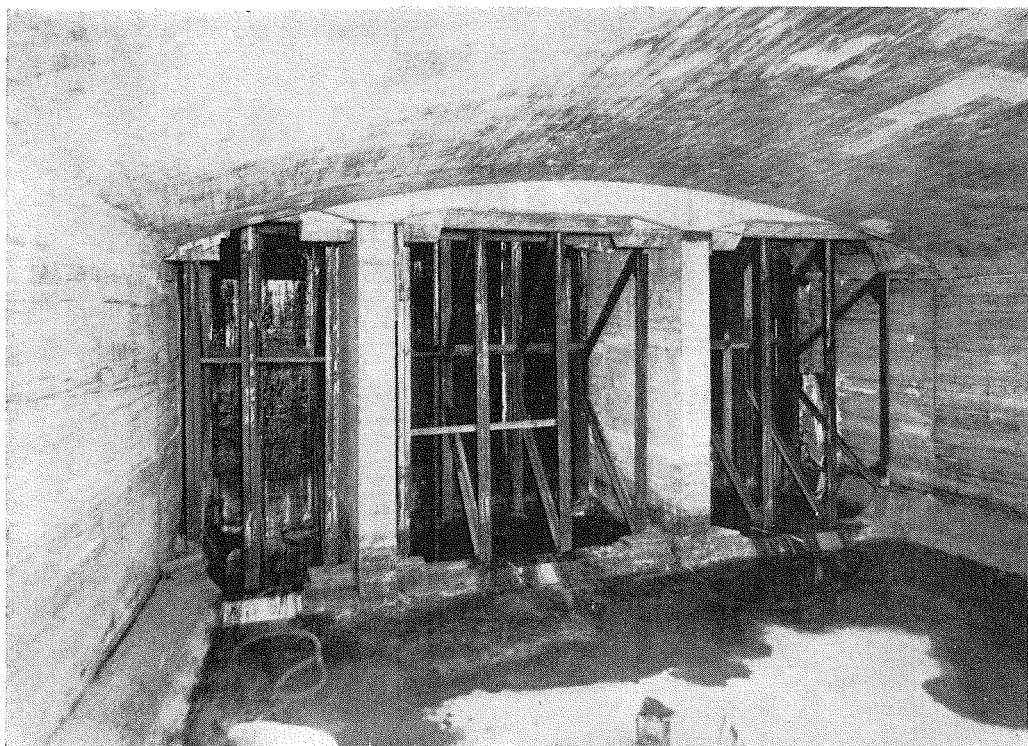
この河底隧道は大阪市第二次都市計画事業の1として安治川市岡線の内、安治川舊源兵衛渡船場に築造されるものである。附近一帯は大阪市重工業地帯であるから、本隧道の一般交通上に及ぼす影響は重大なものがある。

工事は兩岸堅坑及河底隧道部分の2に分れ

てゐる。兩岸の堅坑は内法20.4米×10.0米の矩形を爲し、その中に大きさ9.50米×3.0米の車輌用昇降機2臺と1.8米×2.30米の歩行者用昇降機が1臺宛設備される。

河底隧道のうち中央50米に亘る部分は沈埋式工法に依つて築造されるが、その他の部分は兩岸の堅坑工事と共に潜函工法に依つて築造するもので、上記の通り南岸は既に構築を完了した。

隧道部分の断面は上流側に有效幅員4.50米

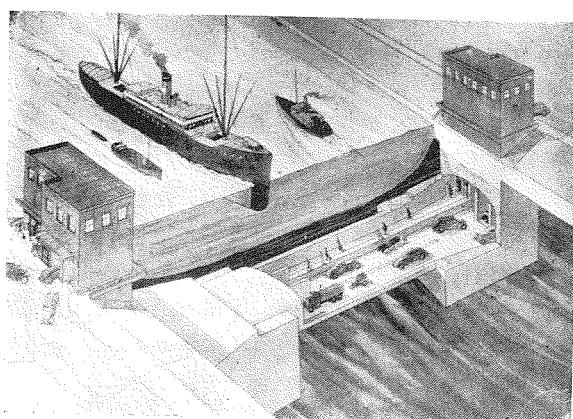


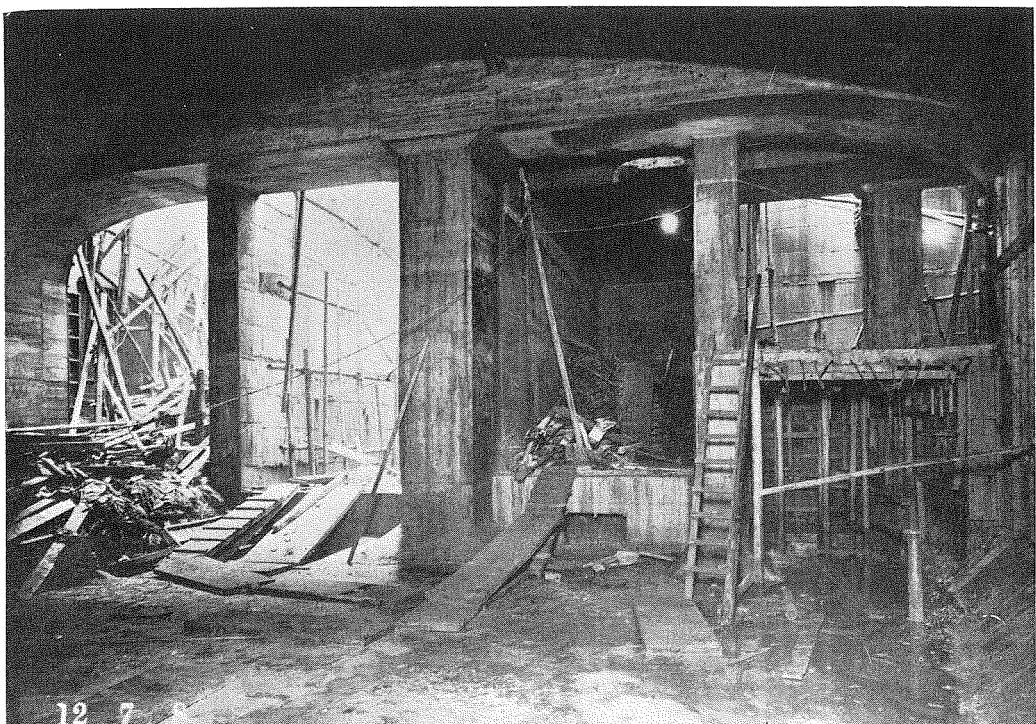
(2) 昇降機室から隧道端を望む。左側は歩行者用道路部分、右側及中央は車道となる部分で、縦柄は水留工用のもので完成後には取外す。これより先方は沈埋式で施工される。

の車道 2 條、下流側に幅員 2.40 米の往復歩道 1 條を有し、全幅員 14.0 米有效幅員 11.4 米同じく高さ 3.50 米である。隧道の總延長は約 100 米、水深 O.P. 下 6 米である。

寫真 2 はエレベータ前の隧道内部廣場の状景で、前方の仕切壁で區切られた右方 2 間は上流側の車道 2 線で、下流の 1 間が歩道である。路面は此床面から尙 90 種上方に出来る譯で、其深さは水面から約 15 米である。仕切壁間の鋼工作物は水留工の控金物で、沈埋管との繼手工作が出来れば取拂ふ。沈埋管はこの外方に續くのである。

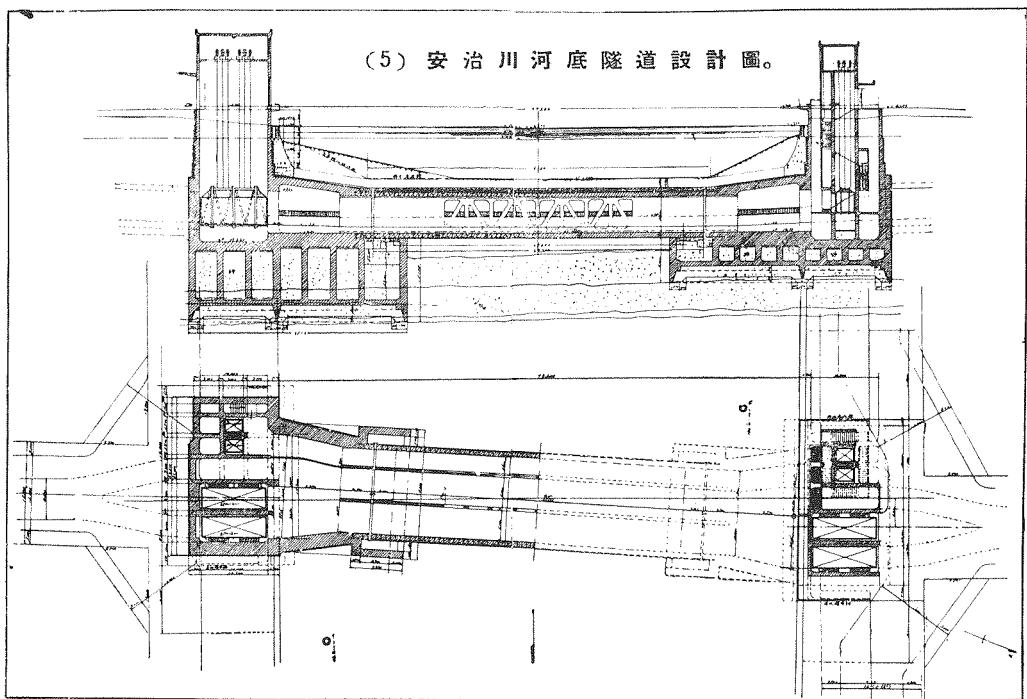
(3) 安治川河底隧道模型圖。(大阪模型製作所製作)





12.7

(4) 隧道内部より昇降機室を望む。



(5) 安治川河底隧道設計図。